

抑うつとリスクテイキング行動との関連-Automatic BART におけるベイジアン認知モデリングの適応-

HP26-0027K 中川 卓知

問題・背景

うつ病患者は近年増加傾向にあり、日本のみならず世界規模で問題となっています。うつ病は、抑うつ気分だけでなく、認知の障害や意思決定に関する問題も指摘されています。特に、リスク下における報酬・罰に対する感受性の高さが意思決定の問題の基盤にあると考えられています (Elliott et al., 1996)。Hevey et al., (2017) は, Automatic Balloon Analogue Risk Task (以下, Automatic BART) というリスクテイキング行動を測定する認知課題を用いて、うつ病における意思決定を罰の感受性の観点から検討しました。結果は、うつ病患者は健常者と比較して課題得点が有意に低い傾向にありました。先行研究の問題点としては、患者の抗うつ薬などの薬物の影響を考慮していないこと、課題得点の平均値を用いた単純な比較が挙げられます。そこで、本研究では、健常者においても同様の傾向が見られるのかを検討します。さらに、課題の認知モデルを考え、どのような認知プロセスを経て行動が生じたのかについて検討することを目的とします。

方法

神奈川県私立大学に通う大学生 65 名を対象に認知課題への取り組みと質問紙への回答を求めました。対象となった大学生は、男性 26 名、女性 39 名でした。人々のリスクテイキング行動を測定する認知課題を実施した後に、各質問紙への回答を求めました。リスクテイキング行動を測定する認知課題には、Pleskac et al., (2008) が作成した Automatic BART を使用しました。研究 1 では, Automatic BART と抑うつとの関係を検討しました。研究 2 では、認知課題によって得られた行動データについて深く検討を行うため、ベイジアン認知モデリングによる、検討を行いました。

結果・考察

研究 1 では, Automatic BART と抑うつ間に有意な負の相関がみられなかったため、抑うつとリスクテイキング行動には関係性がないことが示唆されました。本研究で得られた知見は、Hevey et al (2017) と異なる結果となったのには、抗うつ薬のような薬物の影響や、実際の臨床群で得られたデータのためであると考えられます。研究 2 では、Automatic BART で得られた行動データがどのような認知プロセスを経て生じたのかについて考えました。認知モデルでは、前の試行に受けたフィードバックを受けて、意思決定が変化するという仮定を置きました。フィードバックの影響の感受性には個人差が認められました。そして、フィードバックの影響を受けやすい人ほど、課題得点が低いという知見が得られました。今回提案した認知モデルは非常に簡単なモデルであり、リスク下での意思決定という複雑な意思決定についての説明は不完全であると考えられます。Automatic BART のより良い認知モデルを検討することで、複雑な意思決定について柔軟な解釈が可能であると考えられます。